

新たな100年に向けて

平塚ろう学校長

杉﨑　郁夫

節目という言葉があります。平塚ろう学校は昨年創立100周年を迎え、いよいよこの10月に100周年記念事業を実施いたします。新たな100年に向けての一歩を踏み出したまさに節目となる年、それが令和8年度です。

「平塚ろう学校」の歴史は、大正14年4月1日に私立中郡盲人学校（平塚町平塚新宿字浅間下604番地）内に私立中郡ろう話学校が設立されたことから始まります。その後昭和6年に中等部に木工科、裁縫科、園芸科を設置、昭和8年には県に移管し神奈川県立盲唖学校と改称し、さらに昭和19年に中等部理髪科が設置されました。昭和23年に盲ろう学校の義務化が実施され、神奈川県立盲学校と分離し「神奈川県立平塚ろう学校」となり、新校舎が完成した昭和35年11月には創立35周年記念事業を行い、翌年には全国理美容研究協議会を主幹いたしました。

その後も各大会、研究協議会の主幹校や事務局を担い、また部活動においても野球大会、バレーボール大会、陸上競技大会、卓球大会など多くの種目にわたり開催校を務めると同時に多くの選手が参加し、輝かしい成果を収めており、昨年初めて日本で開催されたデフリンピックにも本校卒業生が複数名参加し、その活躍は記憶に新しいところです。また平成16年9月に和太鼓同好会「鼓舞子」がアメリカウィスコンシン州において海外公演を行ったことは現在も和太鼓指導に活かされています。

冒頭で記したまさに節目といえる瞬間に立ち会えた喜びとともに、これからの100年をどう進んでいくのか、より良い「平塚ろう学校」を目指すための課題にも向き合っていかなければなりません。昨年6月には「手話に関する施策の推進に関する法律（手話施策推進法）」が施行され、ろう学校として「センター的機能のさらなる拡充」が求められており、関係機関との連携強化の必要性も高まっています。

歴史と伝統を積み上げていくためには「時代の変化」に対応できる「柔軟性」と、「必要なもの」を「見極める判断力」が不可欠です。また昨今の天候の変化の激しさを踏まえ、自然災害への備えなど、「防災・防犯」の視点も忘れてはならないことです。安全・安心な毎日の積み重ねを継続することがいかに大切か、ということを常に意識することが重要であると感じています。

これまでの100年の歴史と伝統を踏まえつつ、新たな時代の変化に柔軟に対応できる「平塚ろう学校」を皆様と手を携えながらともに目指してまいります。引き続きのご支援ご理解を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、これまで本校を支えていただきましたすべての関係者の皆様への感謝をお伝えし、「新たな100年に向けて」の言葉といたします。



今日はとても特別な日

神奈川県教育委員会教育長

花田忠雄

平塚ろう学校が、創立100周年を迎えました。おめでとうございます。100年という長い歴史を作ることができたのは、ここにいる幼児・児童・生徒の皆さん、それから卒業生、歴代の校長先生をはじめとする先生方、保護者の皆さん、そして地域で応援してくれている皆さんのおかげです。心から感謝申し上げます。

平塚ろう学校で学んだ皆さんは、一人ひとりが勉強や部活動を通じて力を発揮し、素晴らしい成果を生み出してきました。中には、昨年の東京2025デフリンピックで、日本代表として世界で活躍した先輩もいます。本当に誇らしいことです。在校生の皆さんは、平塚ろう学校が作ってきた100年の歴史を、これから受け継いでいく大切な存在です。授業で新しい言葉を覚えたり、行事で地域の人と知り合ったり、寄宿舎生活で初めて家から離れることを経験するなど、皆さんは毎日、学びと発見を積み重ねていると思います。これからも、幼稚部、小学部、中学部、高等部のみんなで高め合い、さらに素晴らしい未来を切り拓いていってください。平塚ろう学校がこれからも輝き続けること、そしてここにいらっしゃる皆さんが元気で活躍されることを、心からお祈りして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。



神奈川県立平塚ろう学校
創立100周年を迎えて

神奈川県議会議員
（元サッカー日本代表・ベルマーレOB）
森　正明

神奈川県立平塚ろう学校が創立100周年の大きな節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴校との歩みを振り返ると、数々の温かい情景が目に浮かびます。身体全体で振動を感じ、感情豊かに打ち鳴らす和太鼓の活動や、様々な困難を乗り越えて挑戦したウィスコンシン州遠征など、指導者の皆様と子どもたちが一丸となり前へ進む姿には深い感動を覚えました。

また、式典等で見せる教職員や皆様の細やかな配慮、手話やスクリーンを活用した分かりやすい心づかいは、まさに「自らの想いや魂を相手に伝える」真摯な姿勢そのものでした。私自身、そうした姿に接するたびに胸を打たれ、2015（平成27年）には通学環境の利便性向上を図るため、学校前に停車する新路線バス（平99系統）の開通を後押しさせていただくなど、微力ながら応援を続けてまいりました。

100年という重みのある歴史を築いてこられた教職員、卒業生、そして関係各位のご尽力に深く敬意を表します。次なる100年に向け、卒業生の皆様の更なるご活躍と貴校の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



創立100周年、誠におめでとうございます。

神奈川県議会議員

米村　和彦

神奈川県立平塚ろう学校創立100周年記念式典のご開催、誠におめでとうございます。

この100年の間にたくさんの生徒たちがこの学校で学び、先生やご家族、地域の皆さんに見守られながら成長し、多くの卒業生を社会へ送り出してこられたことに心から敬意を表します。

幼稚部から高等部・専攻科まで、一人ひとりに寄り添い、仲間とともに学び、思いを伝え合うことを大切にされてこられたことは、平塚ろう学校の誇りだと思います。

これからの新しい100年も、生徒たちの笑顔と学びにあふれる学校でありますよう、心からお祝い申し上げます。



一般社団法人神奈川県聴覚障害者連盟

理事長

河原　雅浩

この度、平塚ろう学校が創立100周年を迎えますことを心からお祝い申し上げます。

当連盟も創立92年を迎えますが、この間の当連盟の運動において、多くの平塚ろう学校を卒業された方が献身的に活動されました。

彼らの貢献がなかったら、現在のような神奈川県のきこえない・きこえにくい人に関する制度は成しえなかったのではないかと思います。彼らを育ててくださった平塚ろう学校に対して、深く感謝申し上げます。

手話講習会や手話通訳派遣制度、そして県手話言語条例、手話施策推進法など、ひと昔前に比べると社会は大きく前進しましたが、きこえない・きこえにくい人の権利が完全に保障され、きこえる人と真に対等な立場で活動できる社会にはまだまだ遠いのが現状です。

当連盟は、引き続き目指す社会の実現に向けて運動を進めてまいりますが、きこえない・きこえにくい子どもたちを、将来、自分に自信をもって自分の力を発揮して社会を切り開いていくことができるような人に育てていくことも非常に重要です。そのために、当連盟としても協力してまいりたいと思います。

最後になりますが、平塚ろう学校の今後のますますのご発展と教職員の皆様方のご活躍を祈念して私のあいさつに代えさせていただきます。



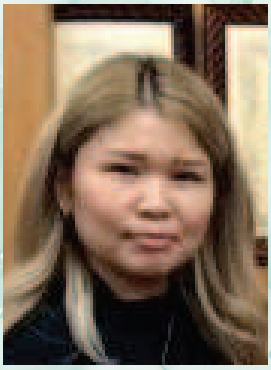
創立100周年、誠におめでとうございます。

平塚ろう学校同窓会副会長
倉金　勲

創立100周年、誠におめでとうございます。

100年という大きな節目の年を迎えるにあたり、創立以来の学校の歩みを振り返るとともに、今後の更なる発展を目指して行きたいと思います。

平塚ろう学校のこれからの100年に向けて、皆様一層のご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



心よりお祝い申し上げます。

平塚ろう学校PTA会長

尾形　沙織

神奈川県立平塚ろう学校創立100周年を迎えられましたことを、PTAを代表し、心よりお祝い申し上げます。

100年という長い歴史の中で、多くの子どもたちがこの学校で学び、夢を育み、それぞれの道へ羽ばたいていきました。今日まで学校を支えてこられた歴代の校長先生をはじめ、教職員の皆様、卒業生、保護者、地域の皆様、そして関係者の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

私たち保護者にとって、平塚ろう学校は子どもたちが安心して学び、自分らしく成長できる大切な場所です。子どもたちが先生や友達と手話で笑顔いっぱいに語り合い、さまざまなことに挑戦しながら成長していく姿は、私たち保護者にとって何よりの喜びです。

ろう教育は100年の歴史の中で、時代とともに歩みを重ねてきました。近年では、手話が言語として広く認識されるようになり、子どもたちが手話で学び、考え、自分の思いを伝えられる環境が、これまで以上に大切にされています。手話言語を大切に育みながら、一人ひとりの可能性を広げる平塚ろう学校の歩みが、これからも未来へ受け継がれていくことを願っています。創立100周年は、これまでの歴史を振り返る節目であるとともに、新たな100年への第一歩でもあります。これからも平塚ろう学校が、子どもたち一人ひとりの夢や希望を育み、笑顔あふれる学びの場であり続けることを心より願っております。

私たちPTAも、学校や地域の皆様とともに、子どもたちの未来を支え、次の100年へ向けて歩んでまいります。

結びに、神奈川県立平塚ろう学校のさらなるご発展と、教職員の皆様、卒業生、保護者、地域の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



平塚ろう学校創立100周年、誠におめでとうございます。

平塚ろう学校高等部生徒会長

西濱　千夏

本校は大正時代に設立されて以来、長い年月をかけて、多くの幼児・児童・生徒や先生方、そして地域の皆様に支えられながら、その歴史を築いてきました。

私は幼稚部から平塚ろう学校に通い始めました。さまざまなことにチャレンジをして多くのことを学びながら、数え切れないほどの思い出をつくることができました。学校生活は、行事や学習方法など、時代とともに変化してきました。しかし、生徒同士の仲の良さや、お互いの個性を尊重し合う校風は、今も変わらず受け継がれていると思います。新しい先生や友達を迎えてもすぐに打ち解けることができる、とても温かい学校です。

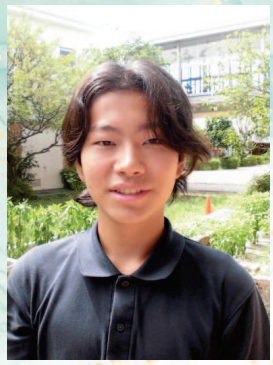
ろう学校は、1クラス10人以下の少人数で学ぶことが多く、だからこそ授業では、生徒同士が顔を合わせて、手話を使いながらコミュニケーションを取ることができます。例えば、体育の授業では、高等部全員で一緒に活動します。そこでは、先輩後輩の垣根を越えて協力し合い、どうすれば試合に勝てるのかと話し合いながら、チームワークを深めています。 また、本校には幼稚部から高等部までがあり、全校生徒と交流する機会があります。その1つが「平ろう交流体育」です。新型コロナウイルスの影響で運動会がなくなり、「みんなで交流できる機会を復活させたい。」という思いから始まりました。幼稚部との玉入れでは、勝利を目指して夢中になって取り組みました。小学部との台風の目では、一緒のチームになった児童の足が速く、私が転びそうになったことも印象に残っています。普段はあまり関わる機会のない他学部の幼児・児童・生徒と交流し、協力しながら活動できたことは、とても大切な思い出です。 さらに、生徒と先生方との信頼関係も厚いことも本校の特色の1つです。私は大学受験に向けて、プレゼンテーションや面接の練習に取り組みました。はじめは表情が硬く、考えている時に無意識に視線が上を向いてしまうことや、発表内容が十分に伝わらないなど、多くの課題がありました。なかなか上手くいかず、焦りの気持ちが募る中、多くの先生方から適切なアドバイスをいただき、何度も練習を重ねることができました。おかげで、本番では落ち着いて自分の考えを伝えることができました。

平塚ろう学校は、一人ひとりの個性が豊かで、自主性や自由を大切にする学校です。この素晴らしい校風がこれからも受け継がれていくことを願っています。

私にとって平塚ろう学校は、第二の家のような存在です。その大切な学校が100周年という記念すべき節目を迎え、在校生としてお祝いできることを大変嬉しく思います。

最後となりますが、平塚ろう学校がこれからも笑顔であふれ、皆さんにとって温かい場所であり続けることを願っています。

改めて平塚ろう学校創立100周年、誠におめでとうございます。



平塚ろう学校創立100周年
おめでとうございます。
平塚ろう学校中学部生徒会長
原口　瑛翔

私は小学部から平塚ろう学校に通っています。この学校でたくさんの思い出ができました。小学生のころは、友達がたくさんでき、一緒に遊んだり、勉強したりしながら、いろいろなことを学びました。友達と過ごした時間は今でも大切な思い出です。

また、新型コロナウイルスの影響で楽しみにしていた行事がたくさん中止になったこともありました。残念な気持ちもありましたが、修学旅行に行くことができ、とてもうれしかったです。友達と一緒に過ごした修学旅行は、忘れられない思い出になりました。小学6年生の卒業式では、これまで一緒に過ごしてきた友達と別れる寂しさがありました。それと同時に、新しい気持ちで中学生になろうと思いました。中学生になって、自分が変わったことは、陸上競技に夢中になったことです。部活動では、先輩や後輩と一緒に練習することが楽しく、毎日の活動が楽しみです。陸上を通して努力することや、仲間と協力することの大切さも学びました。

私が思う平塚ろう学校の良いところは、人数が少ないことです。人数が少ないからこそ一人ひとりとの関わりが深くなり、みんなで仲良くできるところが良いと思います。学年が違っても、一緒に話したり活動したりすることで、強い絆をつくることができます。

これからも、平塚ろう学校でできた友だちとのつながりを大切にし、楽しい学校生活を送っていきたいです。

平塚ろう学校がこれからも、みんなにとって笑顔で過ごせる大切な場であり続けることを願っています。



平塚ろう学校創立100周年
本当におめでとうございます。

平塚ろう学校児童会長
中村　優月

ぼくは、幼稚部の年少から平塚ろう学校に通っています。この学校で、たくさんの思い出ができました。幼稚部では、クラスのみんなで「ピーターパン」の劇の発表をしました。先生や年下の子たちに見られて、緊張もしましたが、みんなに見てもらえてうれしかったです。修了式の日は、いっしょに過ごしてきた先生と別れるのが悲しくて、「このままがいいな」と思いました。幼稚部で教えてくださった先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。

小学部では、年に一度の「平ろう祭」に向けて、クラスのみんなでいろいろなアイデアを出し合いました。ぼくのクラスの出し物は、使わないものを生かして新しいものに作り変える「リサイクル」をテーマにしました。たくさんの人が来て楽しんでくれて、とてもうれしかったです。当日は夢中になって楽しみました。みんなと協力して活動できたことや、友だちとの何気ないおしゃべりをたくさんしたことも、大切な思い出です。校外学習では、ごみ処理場や水道記念館などに行きました。ごみの分別のしかたや、水がどのように家まで届くのかなど、いろいろなことを学びました。地域の学校との交流も、1年生から続けてきました。聞こえにくい中で、うまくやりとりできるか心配でしたが、みんながわかりやすく話してくれて、安心して楽しく通うことができました。放課後に交流先の友だちが遊びに誘ってくれたときは、「友だちと思ってくれているんだ」と感じて、とてもうれしかったです。これからも友だちを大切にしていきたいです。

また、平塚ろう学校のよいところは、平ろう祭や交流体育などで、上級生や下級生と関わり、仲よくなれるところです。その中で、相手に合わせた話し方や接し方も学ぶことができました。

最後に、ぼくには、児童会長としての目標があります。それは、今の平塚ろう学校のよさを大切にしながら、みんながこれからも仲よく、毎日「学校に来たい」と思える学校にしていくことです。ぼくが会長のあいだに、さらによりよい学校になるようにがんばります。そして、会長を終えるときには、この思いを後輩にしっかり引きついでいきたいです。これからも、みんなが楽しく過ごせる平塚ろう学校であり続けてほしいです。そのために、ぼくも努力していきます。

平塚ろう学校100周年、本当におめでとうございます。